



株式会社ダイセル  
株主の皆様へ

第147期

2012年4月 1日から  
2013年3月31日まで

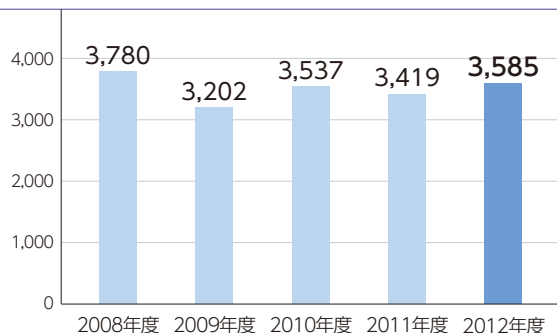
# DAICEL TODAY



## 財務ハイライト(連結)

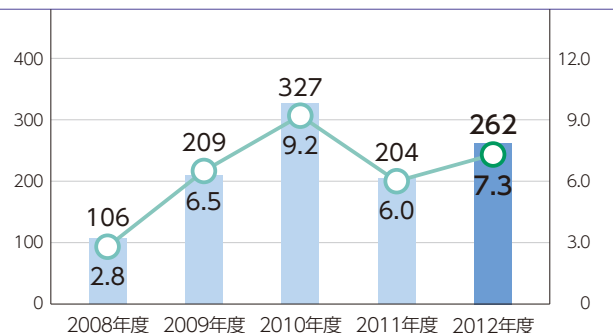
ダイセルグループの当期における連結業績は、販売数量の増加や販売価格の是正などにより、売上高は3,585億13百万円(前期比4.8%増)となりました。利益面では、増収に加え減価償却費の減少などにより、営業利益は261億96百万円(同28.2%増)、経常利益は285億80百万円(同35.5%増)、当期純利益は153億72百万円(同30.0%増)となりました。

売上高: **3,585**億円  
(億円) **前期比 4.8%増**



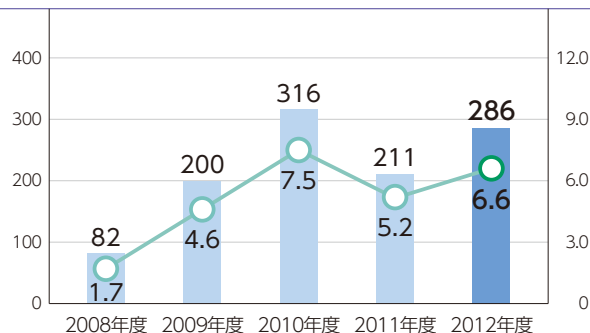
営業利益: **262**億円  
(億円: 左軸) **前期比 28.2%増**

営業利益率: **7.3%**  
(%: 右軸) **前期比 1.3ポイント増**



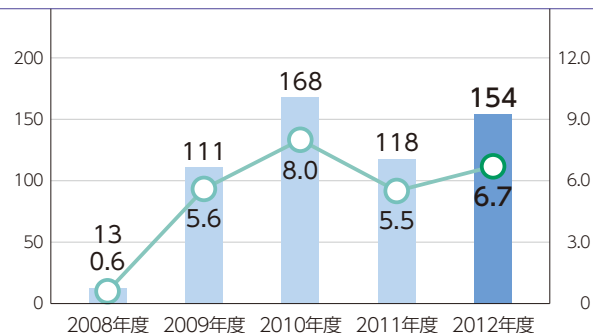
経常利益: **286**億円  
(億円: 左軸) **前期比 35.5%増**

ROA: **6.6%**  
(%: 右軸) **前期比 1.4ポイント増**



当期純利益: **154**億円  
(億円: 左軸) **前期比 30.0%増**

ROE: **6.7%**  
(%: 右軸) **前期比 1.2ポイント増**



## 株主の皆様へ

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

ダイセルグループの第147期(2012年度)の事業の概況につきまして、次のおりご報告申し上げます。

### 当期の業績

中期計画「3D-I」(計画期間:2011~2013年度)の2年目である当期は、中期計画の目標には届かなかったものの、販売数量の増加や販売価格の是正などにより、増収増益を達成することができました。

また、「3D-I」の基本戦略である新規事業の創出や、戦略的M&Aの活用などの諸施策を、着実に実行してまいりました。

### 来期の見通し

2013年度は、景気回復への動きが期待されるものの、原燃料価格の高騰や中国経済の減速、欧州金融危機など、景気が下振れするリスクもあり、国内外において不確実性を内包した状況が続くものと予想されます。

当社グループは、アジアや北米を中心に伸びる需要に対応した拡販や、現地顧客サービスの向上などグローバルでの事業展開強化に取り組むとともに、コストダウンへの取り組みも緩めることなく継続し、増益基調を確実なものにしていきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも、より一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2013年6月  
代表取締役社長

札場 操



中期計画の基本戦略の着実な実施と、コストダウンへの継続的な取り組みにより、確実に利益成長を図っていきます。



2012年度の業績について聞かせてください。



自動車生産回復に対応した拡販や販売価格の是正、継続的なコストダウンなどに取り組んだ結果、増収増益を達成しました。

2012年度の日本経済を振り返りますと、欧州をはじめとした海外景気の悪化や長期にわたる円高、中国における日本製品不買運動などにより、景気回復の動きに力強さが見られませんでした。しかし、年明け以降、円高の緩和などにより輸出環境が改善され、生産や景気にも持ち直しの動きが見えてきました。

このような環境の中、当社グループは、主に自動車産業のグローバルでの増産に対応した拡販や原燃料価格の上昇に伴う価格是正の実施、さらには継続的なコストダウンを行うなど、業績の向上に懸命に取り組んでまいりました。

この結果、売上高については3,585億13百万円（前期比4.8%増）と、増収を達成することができました。また、利益面では、増収に加え減価償却費の減少などにより、営業利益は261億96百万円（同28.2%増）、経常利益は285億80百万円（同35.5%増）、当期純利益は153億72百万円（同30.0%増）と、大幅な増益となりました。

期末配当については、普通配当を2円増配し、1株につき7円とさせていただきます。これにより、年間配当は1株につき12円となりました。



## Q

2013年度は、中期計画「3D-I」の最終年度となりますが、これまでの進捗について聞かせてください。

## A

新規事業の創出、戦略的M&Aの活用、基盤強化への取り組みなど、諸施策を着実に実行しました。

中期計画「3D-I」の2年目を終えて、業績計画には届かなかったものの、基本戦略については着実に実行してまいりました。

新規事業創出については、エレクトロニクス分野、エネルギー・環境分野、ヘルスケア分野をターゲット領域として、新規事業の創出に取り組んでいます。(→7～8ページ)

また、戦略的M&Aについては、米国のインシエータ（インフレーター用着火部品）の製造販売会社と、ドイツの液晶ポリマー原料の製造販売会社を買収し、グループの生産体制を強化してきました。

さらに、基盤強化については、2012年9月、網干工場に都市ガス・コージェネレーション設備を導入しました。これにより、電力購入コストを大幅に低減するとともに、CO<sub>2</sub>削減による環境負荷低減を可能としました。

この他にも、たばこフィルター用トウの製造能力増強や、マレーシアでのポリアセタール増設、インフレータの海外拠点での増強、韓国拠点新設など、コア事業のさらなる強化を図ってきました。





2013年度の業績見通しについて聞かせてください。



引き続き販売数量の増加、継続的なコストダウンに取り組むことにより、増収増益を予想しています。

今後のわが国経済は、円高の緩和や株価上昇により、企業や家計のマインドが改善し、堅調に回復への動きを強めていくことが期待されます。しかし一方で、原燃料価格の高騰や中国経済の減速、欧州金融危機など、景気が下振れするリスクもあり、国内外において不確実性を内包した状況が続くものと予想されます。

このような情勢下、当社グループの2013年度の業績見通しについては、自動車の生産拡大に伴うエンジニアリングプラスチックや自動車エアバッグ用インフレーターなどの販売数量の増加を見込んでいます。また、2013年5月に三菱レイヨン(株)との合併会社スタートし、7月には製造能力増強を予定しているたばこフィルター用トウの販売数量の増加、継続的なコストダウンへの取り組みなどもあり、売上高4,050億円(当期比13.0%増)、営業利益350億円(同33.6%増)、経常利益360億円(同26.0%増)、当期純利益200億円(同30.1%増)を予想しています。

Q

ここ数年化学会社で大きな事故が続いていますが、「安全」についての考えと取り組みを聞かせてください。

A

設備の保全や老朽化対策、人材育成に力を入れ、事故を未然に防ぐ努力をしています。

当社は過去に大きな爆発事故を起こし、近隣住民の皆様や自治体、関係するお客様に大変なご迷惑をおかけしました。二度とこのような事故を起こさないためにも、安全文化を社内に醸成していくことが、私ども経営陣の使命であると考えています。

化学工場での事故の原因は、一般的に設備の老朽化、世代交代による技術伝承の不十分さ、人員不足と言われています。当社でも設備の保全や老朽化対策、人材育成に力を入れ、事故を未然に防ぐ努力をしています。しかし、それだけでは事故を防ぐことはできず、安全安定運転のためのさまざまな仕組みや、継続的改善が必要です。また、トラブルが発生したときに、いかに初期行動をきちんととれるかも重要だと考えています。

「ダイセル式生産革新」によりトラブルの数は減少しましたが、一方でトラブルを経験する機会が減少しています。そこで、2013年3月より教育訓練センターをリニューアルし、危険体感教育を開始しました。教育は社内にとどまらず、グループ企業の社員も対象としています。(→13ページ)

## 特集: ダイセルの新規事業創出に向けた取り組み

ダイセルグループは、現在進行中の中期計画「3D-I」のもとで、エレクトロニクス分野、エネルギー・環境分野、メディカル・ヘルスケア分野をターゲット領域として、新規事業の創出に取り組んでいます。本特集では、中期計画2年目を終えた時点での、新規事業創出に向けた主な案件の進捗状況を紹介いたします。

ターゲット領域	研究	工業化検討	上市
		製品開発	顧客評価 (有償サンプルを含む)
エレクトロニクス		LED、OLED封止材	
		カメラレンズ用配合物	
		タッチパネル向けフィルム	
エネルギー・環境		超分散ナノダイヤモンド	
		可視光応答型酸化チタン系光触媒	
メディカル・ヘルスケア		口腔内崩壊(OD)錠用プレミックス添加剤	
		エクオール(大豆由来のアンチエイジング素材)	

### エレクトロニクス分野

#### ● LED封止材 CELVENUS®

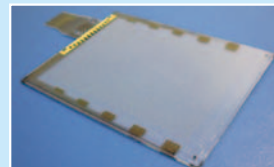
屋外ディスプレイ用から液晶バックライト用、照明用まで取り揃えたLED封止材では、試験製造設備を設置しました。原料からの一貫した開発によりユーザーの多様な要求に対応できる強みを活かし、市場開拓を本格化していきます。

#### ● カメラレンズ用配合物

当社グループの紫外線(UV)硬化樹脂や熱硬化樹脂を活用して、スマートフォン、タブレットPC用に、レンズ材料やモジュール用接着剤を上市しています。

#### ● タッチパネル向けフィルム

当社グループの素材・技術を活かしたさまざまな新規機能性フィルムの開発を進めていますが、なかでもタッチパネル向けフィルムの開発が先行しており、一部の用途で販売を開始しています。

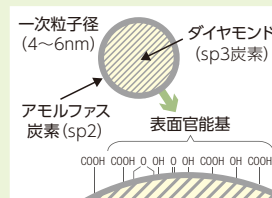




## エネルギー・環境分野

### ● 超分散ナノダイヤモンド

半導体などの精密研磨工程やガラス代替用途から、電気電子、エネルギー、バイオ医療分野などへと用途拡大が見込まれる超分散ナノダイヤモンドは、国内一貫生産体制によりアプリケーションに応じた製品開発を進めています。2013年度中に超分散ナノダイヤモンドを生成する爆射試験設備を設置する予定です。



### ● 可視光応答型酸化チタン系光触媒 **CelMuse®**

蛍光灯のような可視光にも反応して汚れや臭いを分解する酸化チタン系光触媒は、グループ会社のダイセルファインケムが本格的なマーケティング活動を開始しました。今後の販売拡大に備え、生産設備の増強を計画しています。

高い酸化能力で有機物を分解



蛍光灯照射前

蛍光灯照射後

## メディカル・ヘルスケア分野

### ● 口腔内崩壊 (OD) 錠用プレミックス添加剤

水無しで安全・便利に服用可能な口腔内崩壊 (OD) 錠向けのプレミックス添加剤が、国内製薬企業で採用前提の評価ステージに入っています。2014年に上市医薬品の添加剤としての販売を目指します。



### ● エクオール **フラボセル®**

大豆由来のアンチエイジング素材として期待が高まりつつあるエクオールは、長年培った微生物バイオ技術を用いて量産化技術を確認しました。その有効性が確認され、販売を開始しています。



# セグメント別事業概況

## セグメント別売上高構成比



■ セルロース事業部門	20.8%
■ 有機合成事業部門	19.9%
■ 合成樹脂事業部門	39.1%
■ 火工品事業部門	18.4%
■ その他部門	1.8%

## セルロース事業部門



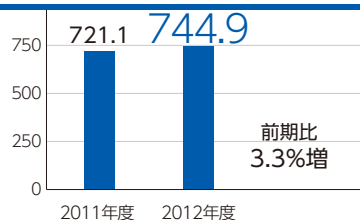
### ■ 酢酸セルロース

主に液晶表示向けフィルム用途の需要が、薄型テレビの販売低迷の影響を受け、売上高は減少

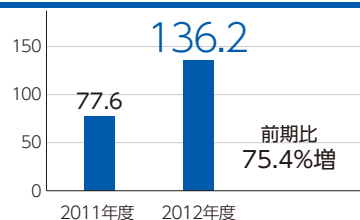
### ■ たばこフィルター用トウ

主に海外向け販売が好調に推移し、売上高は増加

## 売上高(億円)



## 営業利益(億円)



## 有機合成事業部門



### ■ 酢酸

主要用途である高純度テレフタル酸(PTA)向け海外需要が堅調に推移したことや、姫路製造所網干工場の2年に1度の定期修繕を実施しない年であったことなどで販売数量が増加しましたが、市況の悪化などもあり、売上高は微増

### ■ 汎用品(酢酸誘導体及び各種溶剤類など)

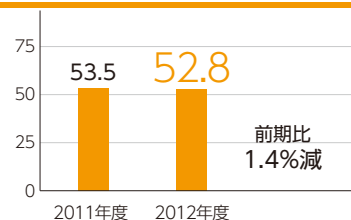
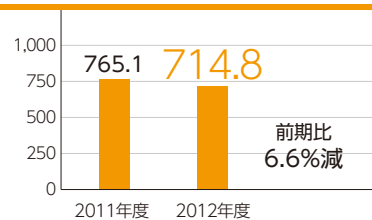
酢酸エチルの販売は堅調に推移したが、欧州や中国での需要減少などの影響もあり、売上高は減少

### ■ 機能品(カプロラクトン誘導体、エポキシ化合物など)

電子材料向け需要の停滞や海外需要不振の影響で、売上高は減少

### ■ キラルケミカル(光学活性体)事業(光学異性体分離カラムなど)

中国や欧州向けのカラム販売は好調だったものの、受託分離の受注減などにより、売上高は減少



## 合成樹脂事業部門



### ■ エンジニアリングプラスチック (ポリアセタール樹脂、PBT樹脂、液晶ポリマーなど)

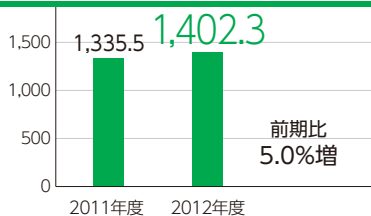
中国における日本車の不買運動や円高の影響を受けましたが、自動車生産回復による販売数量の増加や原燃料高に対応した販売価格の是正が進み、売上高は増加

### ■ 樹脂コンパウンド事業 (ABS樹脂、エンブラロイ樹脂など)

自動車部品向けなどが堅調に推移しましたが、電機・電子材料向けの需要が低迷したことにより、売上高は微減

### ■ 樹脂加工事業 (シート、成形容器、フィルムなど)

2012年4月より高発泡プラスチック製品事業において吸収合併により事業規模が拡大しましたが、電子材料分野での需要低迷などの影響もあり、売上高は横這い



## 火工品事業部門

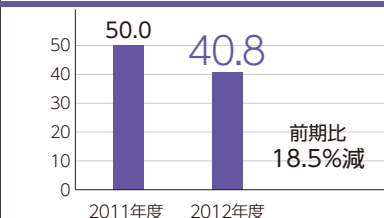
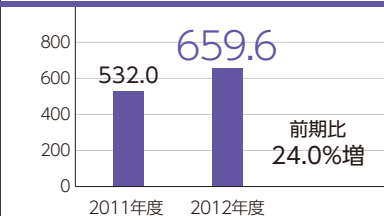


### ■ 自動車エアバッグ用インフレーター (ガス発生器)、シートベルト・プリテンショナー用ガス発生器 (PGG)

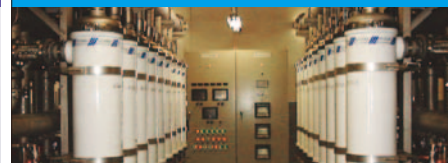
中国における日本車の不買運動の影響を受けましたが、前期に震災で落ち込んでいた自動車生産台数が回復したこと、及び2012年4月に買収したイニシエータ (インフレーター用着火部品) の製造販売会社である米国Special Devices, Inc. を新規連結したことにより、売上高は大幅に増加

### ■ 特機事業 (発射薬、ミサイル構成部品、航空機搭乗員緊急脱出装置関連製品など)

一部製品の防衛省による調達数量増加により、売上高は増加



## その他部門

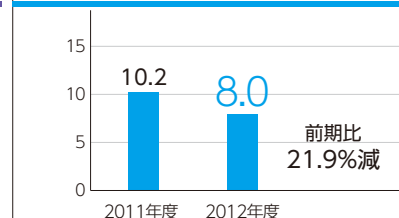
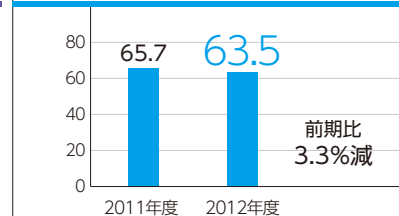


### ■ メンブレン事業 (水処理用分離膜モジュールなど)

医療分野向けが好調に推移し、売上高は増加

### ■ その他、運輸倉庫業など

売上高は減少



# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位: 百万円、百万円未満切り捨て)

	前 期 2012年3月31日現在	当 期 2013年3月31日現在	増 減 (△印減)
<b>資産の部</b>			
流動資産	197,170	<b>232,200</b>	35,030
固定資産	201,026	<b>229,312</b>	28,286
有形固定資産	139,204	<b>149,323</b>	10,119
無形固定資産	2,393	<b>13,605</b>	11,212
投資その他の資産	59,428	<b>66,382</b>	6,954
<b>資産合計</b>	<b>398,196</b>	<b>461,512</b>	63,316
<b>負債の部</b>			
流動負債	101,828	<b>113,226</b>	11,398
固定負債	61,656	<b>85,386</b>	23,730
<b>負債合計</b>	<b>163,485</b>	<b>198,613</b>	35,128
<b>純資産の部</b>			
株主資本	214,701	<b>226,757</b>	12,056
資本金	36,275	<b>36,275</b>	—
資本剰余金	31,579	<b>31,579</b>	—
利益剰余金	152,858	<b>164,927</b>	12,069
自己株式	△ 6,011	<b>△ 6,025</b>	△ 14
その他の包括利益累計額	3,004	<b>14,207</b>	11,203
少数株主持分	17,005	<b>21,935</b>	4,930
<b>純資産合計</b>	<b>234,711</b>	<b>262,899</b>	28,188
<b>負債純資産合計</b>	<b>398,196</b>	<b>461,512</b>	63,316

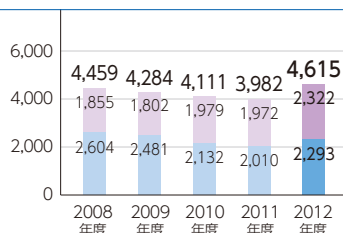
現金及び預金、たな卸資産、有形固定資産、無形固定資産の増加などにより、増加しました。

社債償還による減少がありましたが、借入金の増加などにより、増加しました。

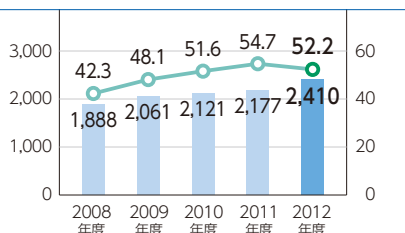
自己資本は2,409億64百万円、自己資本比率は52.2%となりました。

財務諸表につきましては、当社ホームページのIRライブラリーに詳細を掲載しています。  
アドレスは次のとおりです。  
<http://www.daicel.com/ir/irlibrary.html>

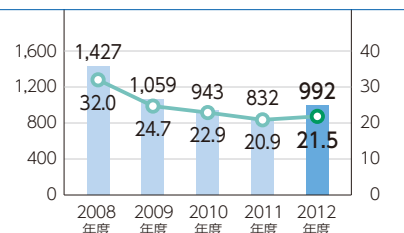
流動資産 (億円)  
固定資産 (億円)



自己資本 (億円: 左軸)  
自己資本比率 (%) (右軸)



有利子負債 (億円: 左軸)  
総資産に対する有利子負債比率 (%) (右軸)



### 連結損益計算書

(単位: 百万円, 百万円未満切り捨て)

	前期	当期	増減 (△印減)
	自 2011年4月1日 至 2012年3月31日	自 2012年4月1日 至 2013年3月31日	
売上高	341,942	<b>358,513</b>	16,571
売上原価	271,200	<b>277,644</b>	6,444
売上総利益	70,742	<b>80,869</b>	10,127
販売費及び一般管理費	50,316	<b>54,672</b>	4,356
営業利益	20,426	<b>26,196</b>	5,770
営業外収益	3,958	<b>4,536</b>	578
営業外費用	3,289	<b>2,153</b>	△ 1,136
経常利益	21,094	<b>28,580</b>	7,486
特別利益	2,089	<b>326</b>	△ 1,763
特別損失	3,221	<b>3,623</b>	402
税金等調整前当期純利益	19,962	<b>25,282</b>	5,320
法人税等	5,939	<b>7,490</b>	1,551
少数株主利益	2,195	<b>2,419</b>	224
当期純利益	11,827	<b>15,372</b>	3,545
設備投資額	18,740	<b>27,217</b>	8,477
減価償却費	28,316	<b>24,026</b>	△ 4,290
研究開発費	12,730	<b>12,875</b>	145

販売数量の増加や販売価格の是正により、4.8%の増収となりました。

販売数量の増加や販売価格の是正に減価償却費の減少などが加わり、28.2%の増益となりました。

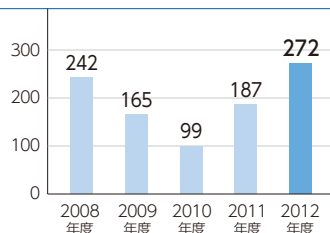
網干工場の都市ガス・コージェネレーション設備新設などを実施しました。

### 連結キャッシュ・フロー計算書

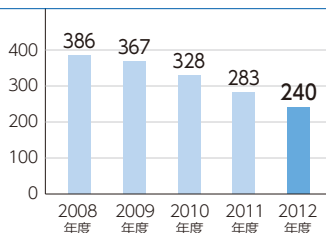
(単位: 百万円, 百万円未満切り捨て)

	前期	当期	増減 (△印減)
	自 2011年4月1日 至 2012年3月31日	自 2012年4月1日 至 2013年3月31日	
営業活動によるキャッシュ・フロー	34,000	<b>44,480</b>	10,480
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 9,190	△ <b>35,312</b>	△ 26,122
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 25,044	<b>5,737</b>	30,781
現金及び現金同等物の期末残高	33,435	<b>53,238</b>	19,803

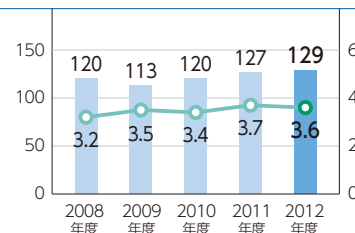
#### 設備投資額 (億円)



#### 減価償却費 (億円)



#### 研究開発費 (億円: 左軸) 売上高研究開発費比率 (%: 右軸)



### 教育訓練センター竣工 ダイセルのモノづくりを支える「人」を育成

2013年3月29日、新しい教育訓練センターが網干工場内に竣工しました。

2002年、同工場内に設立した旧教育訓練センターは、既存の建屋を転用した研修棟と実習用の小規模プラントを活用し、開校時から数えると延べ2,400名を超える社員に対し、モノづくりの基本をしっかりと根付かせるための教育を行ってきました。当初は新入社員や、中堅、ベテランオペレーターを研修対象としていましたが、現在では技術者、リーダー職、支援部門、そしてグループ会社へと拡大させてきています。しかし、近年のニーズに対応したカリキュラムの充実、研修コースや受講者の増加により手狭になったこと、及び研修棟の老朽化も進み、見直しが必要となっていました。

このたび竣工した新教育訓練センターは、研修建屋を新設し、実習用の小規模プラントを集約して移設し



たものです。新設した研修建屋は広々として明るい2階建てで、研修室や操作室、実習室を効率的に配し、新たに危険体感教育のための設備を導入するなど、より機能的に教育訓練できる施設となっています。また、操作室は一部をガラス張りにして廊下からの見学を可能とし、プラントは工場の幹線道路からも見えやすいレイアウトにするなど、ご見学いただくお客様の視点にも立った設計としています。

「基本に始まり、基本に戻る」という教育訓練センターの運営理念はそのままに、これまで以上にモノづくりを支える「人」の育成に注力していきます。





## 会社概要 (2013年3月31日現在)

商号：株式会社ダイセル

英文商号：Daicel Corporation

大阪本社：〒530-0001

大阪市北区梅田3-4-5(毎日インテシオ)

Tel. (06)6342-6111

東京本社：〒108-8230

東京都港区港南2-18-1 (JR品川イーストビル)

Tel. (03)6711-8111

設立：1919年9月8日

資本金：362億7,544万89円

従業員数：連結：9,233名 単独：1,872名

### 役員：

#### 取締役

取締役会長 小川 大介  
代表取締役社長 札幌 操\*  
代表取締役 福田 眞澄\*  
取締役 小河 義美\*  
取締役 後藤 昇  
取締役 古森 重隆  
取締役 岡田 明重  
取締役 三浦 勇一

\*執行役員兼務者

#### 執行役員

社長執行役員 札幌 操  
専務執行役員 福田 眞澄  
専務執行役員 宮崎 鉄三  
常務執行役員 宗 正幸  
常務執行役員 井口 友二  
執行役員 小河 義美  
執行役員 岩井 保範  
執行役員 西村 久雄  
執行役員 白子 直秀  
執行役員 児島 秀景  
執行役員 Dieter Heckmann

#### 監査役

常勤監査役 大屋 均  
常勤監査役 木原 強  
監査役 岡本 罔衛  
監査役 高野 利雄

## 株式情報 (2013年3月31日現在)

株式の状況：発行可能株式総数 1,450,000,000株

発行済株式総数 364,942,682株

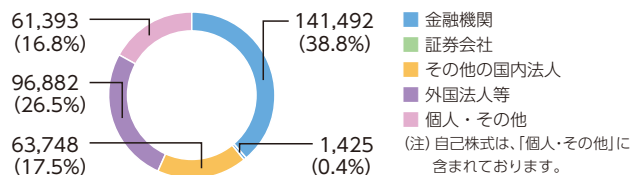
株主数 17,226名

### 大株主：

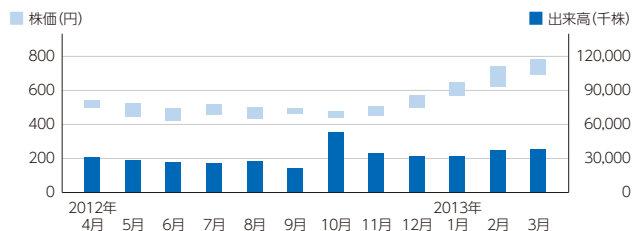
株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	24,842	7.06
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	21,150	6.01
日本生命保険相互会社	18,813	5.34
富士フィルム株式会社	17,271	4.91
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	15,927	4.52
トヨタ自動車株式会社	15,000	4.26
三井住友海上火災保険株式会社	7,203	2.04
株式会社三井住友銀行	7,096	2.01
三井物産株式会社	6,777	1.92
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,503	1.84

(注) 出資比率は、自己株式を控除して算出し、小数第3位以下を切り捨てて表示しております。

### 所有者別株式分布状況(千株)



### 株価(高値・安値)及び株式売買高の推移



## 株式事務のご案内

- 事業年度**：毎年4月1日より翌年3月31日まで
- 定時株主総会**：6月中
- 同総会権利行使  
株主確定日**：3月31日
- 株主配当金支払  
株主確定日**：3月31日
- 中間配当金支払  
株主確定日**：9月30日
- 株主名簿管理人**：東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所**：〒540-8639  
大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
- 郵便物送付先**：〒168-0063  
(電話照会先) 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)  
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店  
及び全国各支店で行っております。
- 単元株式数**：1,000株
- 上場証券取引所\***：東京、大阪
- 公告方法**：電子公告  
ただし、事故その他やむを得ない事由によっ  
て電子公告による公告をすることができない  
場合は、日本経済新聞に掲載して行います。  
なお、電子公告は当社のホームページに掲載  
して行います。

### お知らせ

#### 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました  
株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行  
株式会社にお申し出ください。

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

#### 未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出  
ください。

※ 東京証券取引所と大阪証券取引所の現物市場の統合に伴い、  
2013年7月16日から東京証券取引所市場第一部となる予  
定です。



URL:<http://www.daicel.com>

ダイセルグループのホームページでは、  
最新の会社情報を随時更新しています。

**DAICEL**  
株式会社 **ダイセル**



**UD FONT**

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

本冊子は環境にやさしい植物油インキと、適切に管理された  
木材を原料としてつくられた「FSC®認証紙」を使用しています。